



地域なんでも情報局

第3号

平成23年5月9日

長崎市社会福祉協議会
長崎市上町1番33号

TEL: 828-1281

【特集】災害と社協

日頃の活動を見つめ直す

東北地方を襲った大地震と津波、そしてそれに起因する形で発生した原子力発電所の放射線の問題。被災地では今もなお行方不明者の捜索や避難所での不自由な生活が続いています。

社協は誰もが安心して心豊かに暮らせるまちづくりを推進することを目的とした組織ですが、住民の生活が危機に瀕する今回のような大災害発生時に、被災地の社協がどのような活動を行っているのかということについてお知らせします。



想像を絶する津波の被害

災害ボランティアセンターの運営

災害ボランティアセンター（以下、「ボラセン」という。）は、支援が必要な被災者と被災者の力になりたいというボランティアの思いをつなぐセンターです。阪神大震災以降、大規模災害が発生した際には、被災地の地元の社協がボラセンを設置し、被災者支援



炊き出しボランティア

を行うことが定着化してきました。（連日の報道でも社協の名前が頻繁に出ています）ボラセンには避難所での生活支援や炊き出し、瓦礫の撤去や家屋内の清掃など被災者から多岐にわたるニーズ（要請）が寄せられます。一方で、被災者のために何かしたいという思いを持った被災地内外のボランティア活動希望者への様々な情報提供やボラセンの受付、被災者からのニーズとのマッチング（調整）など、ボラセンの役割は多岐にわたります。このように災害発生時のボラセン運営を、社協が担うことが定着化してきた理由として、社協が普段から当該地域の住民や地域の各種団体とのつながりが深いということが挙げられます。ボラセン設置の広報や被災者からのニーズの収集、そして依頼者宅へボランティアを移送する際の道案内など、被災地の社協と地域の各種団体との連携があつてはじめてスムーズな被災者支援が可能となります。



ボランティア活動に積極的に取り組む東北高校（宮城県）の野球部員

日頃から社協支部の皆様をはじめ地域住民の皆様には、一人暮らし高齢者の食事会や高齢者サロン、ささえあいネットワークをはじめとした要援護者の見守り活動などに取り組んでいたという事実ですが、このような普段の活動が大規模災害発生時にも大きな成果を発揮するということが明らかになっていきます。「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉もあるくらい、私たちが暮らすここ長崎市でも、いつ・どこで・どのような災害が発生するかわかりません。皆様の地域で、今回の大災害を期にそれぞれの日頃の活動を「災害にも強いまちづくり」という視点で改めて見つめ直してみたいかがでしょうか。

また、日頃から様々な活動に取り組みながら地域内の住民同士のつながりの構築や助け合い精神を育むことと同時に、災害発生時に地域外の支援者（ボランティア）を受け入れる環境を整える（受援力を高める）ための心構えについて考えておくことも大切です。

あの人！どんな人！こんな人！

奥野 繁雄さん 西山二丁目



奥野さんは、「文化理容院」を営んでおり、昭和36年ごろから子どもが床屋に遊びにきていたのをきっかけに、子どもの一時預かりを行っています。上長崎小学校の向かい側の裏通りにひときわ目立つ赤いビルの中に「文化理容院」があります。奥野さんは、この地にあつた実家の床屋を15歳で継いで、当時障害者施設で散髪奉仕を行っていたのですが、その施設の子どもの成長して仕事をするようになり、出会ったときに顔を覚えてくれて、「あの時はありがとう」とお礼を言ってくれたときに、「散髪奉仕をしていて良かったな」と思つたことが、ボランティアをするきっかけになったと話してくれました。以前は、毎日5、6人の子どもの預かっていて、遅い時には夜11時まで預かることもあつたそうです。また、夏休みには17、18人の子どもの遊びに来ていて、所有していたキャンプカーで、水族館やバイオパークなどに遊びに連れて行くこともあつたそうです。9年前からは、上長崎小学校の通学路で、朝と下校時の見守りボランティアを行っており、下校時は、集団下校の小学1年生と一緒に家まで送っています。下校途中にトイレに行きたがる子どもがいるために、通学路に面した数件の住民宅にお願いをして、トイレを貸してもらおうようにしているそうです。そういった他人の家のトイレを借りたりすることで、挨拶の仕方やお礼の仕方、靴の並べ方などを注意し、社会的な礼儀も教えながら、悪いことは叱り、いいことはほめる。「1日1回なんでもいいから、いいことをしよう」と子どもたちに話をしていくんですよ、と笑顔で話してくださいました。



座談会

平成21年1月から2年間をかけて実施してきた住民座談会を今年度以降も引き続き未実施地区を中心に開催いたします。自分達の暮らすまちを今以上に住みよいまちにするためにみんなでワイワイ語り合ひましょう！



ご参加、お待ちしております。

職員紹介

4月1日から新しく地域福祉係に配属になった職員をご紹介します。

富永 敦志
私は、昨年度までは業務係で貸付関係の業務をしており、今回の配属で仕事の内容がガラッと変わり、慣れないことと迷惑をおかけするかもしれませんが、1日も早く地域に溶け込めるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

宮本 友和
地域福祉係へ3年ぶりに戻ってきました。ボランティア室での3年間の経験を活かして頑張りますのでよろしくお願いします。

石橋 篤子
4月から「ファミリースポーツセンター」がさきの担当になりました。私自身も2才、3才の子育て真っ最中です。お母さんたちの悩みが少しでもラクになれるよう頑張ります。宜しくお願いします。

お母さんたちの悩みが少しでもラクになれるよう頑張ります。宜しくお願いします。

お知らせ

◆平成23年度
（日時）5月24日（火）
午前10時～11時40分
（場所）小江町小江工業団地

あとかき

暑くもなく寒くもなく過ごしやすいこの季節。バイク通勤をしている私にとって自宅までの30分間のツーリングが毎日のリフレッシュタイムになっています。心地よい風に包まれてバイクと一体となるこの時間：「あゝ最高！」を連発するくらい私にとつての至福のひとときです。

（二代目 福祉の営業マン）